

# 第19回

## 三重県文化賞受賞者名簿

三 重 県



## 第19回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成13年度の第1回表彰から平成30年度の第18回表彰までの受賞者数は254名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第19回目になる今回は、令和元年7月26日から9月25日まで募集を行ったところ、38名の方からの推薦があり、受賞候補者は38名となった。

### 【募集結果】

受賞区分	推薦数	受賞候補者数
文化大賞	4	4
文化功労賞	11	11
文化奨励賞	12	12
文化新人賞	11	11
計	38	38

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等10名で構成する第19回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に選考を行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って2名に絞り込み、第二次選考を行った。

各分野において優れた活動実績が認められたが、投票の結果、学術分野（郷土文化）の大川吉崇さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って7名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った7名の活動と功績は優れた水準を維持しており、優劣付け難い状況であったが、二度の決選投票を経て、最終的に生活文化分野（書道）の荒木友梅（本名：荒木元浩）さん、音楽分野（合唱）の河俣和子さん、文学分野（俳句）の橋本輝久さんの3名を選出となった。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って11名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、文学分野（小説・詩）の遠藤昭己さん、音楽分野（合唱）の女声合唱 Luce、伝統芸能分野（能楽囃子）の名張こども能楽囃子教室実行委員会、文学分野（俳句）の平賀節代さん、文学分野（小説・童話）の村山昌子さんの5名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って10名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、美術分野（絵画）の岩名泰岳さん、文学分野（散文）の小川はつこさん、美術分野（竹製ランプの制作・演出）の川渕皓平（雅号：canaarea）さん、文学分野（短歌）の清水ゆんさん、音楽分野（大正琴）の橋本莉さんの5名を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞者を分野別で見ると、文学分野6名、美術分野2名、音楽分野3名、伝統芸能分野1名、生活文化分野1名、学術分野1名であった。

文学分野、音楽分野、美術分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、演劇・舞踊やメディア芸術の分野の推薦がなかったことから、今後、幅広い分野からの推薦をいただくよう期待する。

なお、推薦件数は昨年度より 1 件多い 38 件であったが地域別にみると東紀州地域からの推薦件数が少ないことから、第 20 回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

#### 第 19 回三重県文化賞選考委員会

(受賞候補者名は各賞五十音順)

## 第19回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕 大川 吉崇 (78歳)	津市	学術分野 (郷土文化)
〔文化功労賞〕 荒木 友梅 (59歳) (本名: 荒木 元浩)	四日市市	生活文化分野 (書道)
河俣 和子 (65歳)	伊勢市	音楽分野 (合唱)
橋本 輝久 (81歳)	伊勢市	文学分野 (俳句)
〔文化奨励賞〕 遠藤 昭己 (79歳)	いなべ市	文学分野 (小説・詩)
女声合唱 Luce	四日市市	音楽分野 (合唱)
名張こども能楽囃子教室 実行委員会	名張市	伝統芸能分野 (能楽囃子)
平賀 節代 (72歳)	伊勢市	文学分野 (俳句)
村山 昌子 (64歳)	鈴鹿市	文学分野 (小説・童話)
〔文化新人賞〕 岩名 泰岳 (32歳)	伊賀市	美術分野 (絵画)
小川 はつこ (65歳)	鈴鹿市	文学分野 (散文)
川渕 皓平 (35歳) (雅号: canaarea)	伊賀市	美術分野 (竹製ランプの制作・演出)
清水 ゆん	志摩市	文学分野 (短歌)
橋本 莉 (15歳)	南伊勢町	音楽分野 (大正琴)

(各賞五十音順、年齢は令和2年5月現在)

賞別 文化大賞 活動分野等 学術分野（郷土文化）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おおかわ よしたか 大川 吉崇</p> <p>(78 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、大正時代から昭和初期の本県の食文化に関する調査を50年以上にわたり実施し、これを論文としてまとめ、全国の民俗学系学科開設の大学及び博物館、民俗学研究会等に20年間配布し続けてきた。昭和50年に三重県内の食文化をまとめた「三重県と食べもの」を発刊、その後、自身の論文をまとめた「三重県の食生活と食文化」等、数多くの書籍を執筆した。</p> <p>また、「みえ食文化研究会」運営委員長、「三重ブランド認定委員会」委員や「みえ食の産業振興ビジョン検討委員会」委員長を歴任し、三重県の食文化の普及に貢献してきた。</p> <p>さらに、地域で活躍する技術者の養成には郷土教育は欠かせないと考え、三重大学や三重調理専門学校、三重介護福祉専門学校等において、三重県の文化や歴史に関する授業を担当し、郷土を愛する人材の養成に尽力してきた。</p> <p>その他にも、大人が三重県の歴史や文化を知らずして、子どもたちへの郷土教育は成しえないと考え、高齢者を対象に平成16年度から地元の老人福祉センターにおいて、毎年8回シリーズの郷土文化に関する講座を開催するなど、様々な世代における人材養成に貢献している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 生活文化分野（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>あらき ゆうばい 荒木 友梅 (本名：あらき もとひろ 荒木 元浩)</p> <p>(59 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、36 年の長きにわたり、県立高校の書道教諭として書道芸術を指導し、書道部の顧問としても指導を続けている。</p> <p>また、三重県高等学校書道教育研究会の理事長も務めた。</p> <p>自身の作品制作においては、国の文化功労者に師事して研鑽を続け、「みえ県展」最優秀賞や「日展」、「読売書法展」、「謙慎書道会展」等の中央展にて数多くの入賞・入選を果たしている。</p> <p>さらに、県内の小中学生を対象に筆文字の必要性や面白さを伝える活動として、「大文字体験」の事業を中心となって実施することや、近隣高校と合同書道展を開催することを通じて、書を愛好する青少年の育成に努めている。</p> <p>三重県書道連盟においては、長年にわたり役員を務め、展覧会の改革を積極的に推し進めて高校生の出品の奨励や出品料の無料化に尽力するとともに、平成 29 年には県内初となる、小・中・高並びに特別支援学校生を対象とした「学生書道展」を企画して 3,000 点に及ぶ作品を集め、展覧会を開催した。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 音楽分野（合唱）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かわまた かずこ 河俣 和子</p> <p>(65 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、中学校の教員として長きにわたり、合唱指導を中心に音楽教育に力を注いできた。合唱部の指揮者として全日本合唱コンクール全国大会や中部合唱コンクールに複数回出場し、第69回及び第72回全日本合唱コンクール全国大会中学校部門では伊勢市立五十鈴中学校合唱部を指揮し、金賞受賞に輝いた。</p> <p>部活動以外にも自身の合唱団を運営し、中学校の卒業生をはじめ、地域で合唱を愛好している方達も招き入れ、精力的に指導し、毎年コンクールに参加するなど、後進の育成に貢献している。</p> <p>また、小学校の文化祭など、地域で行われるイベントでの合唱披露を通じた地域おこしにも尽力している。さらに、東日本大震災後には、宮城県立多賀城高校との合同合唱を通じて交流を図った。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>はしもと てるひさ 橋本 輝久  (81 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、22 歳で教職の傍ら俳句を始め、戦後俳句のカリスマと呼ばれた故・高柳重信氏に認められ、俳壇にデビューした。その後、「第 7 回現代俳句協会新人賞」や「現代俳句協会全国大会特別選者宇多喜代子特選賞」等を受賞するなど、数多くの優れた功績を収めた。教育者としても長年の功績により、平成 30 年に瑞宝双光章を受章している。</p> <p>また、「東海地区現代俳句協会」副会長や「現代俳句協会」新人賞選考委員等を歴任するとともに、三重県俳句協会の創立・発展に関わり、俳句の普及ひいては三重県の文化の振興・発展に寄与した。</p> <p>さらに、県内の小中高校において、俳句に親しむ指導を実施することに加え、県内各地の俳句大会や講演会の講師を務めるなど、後進の育成にも尽力している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（小説・詩）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>えんどう あきみ 遠藤 昭己</p> <p>(79 歳)</p>	<p>いなべ市</p>	<p>氏は、平成 18 年に文芸同人誌「海」に参加以降、10 年以上にわたり、毎号、小説または詩を発表してきた。</p> <p>その結果、小説においては、平成 19 年に「第 20 回中部ペンクラブ文学賞」を受賞し、詩においては、平成 8 年に「第 6 回伊東静雄賞奨励賞」、翌年には「第 7 回伊東静雄賞」を受賞するなど、数多くの優れた功績を収めてきた。</p> <p>また、文芸同人誌「海」の代表に就任以降は、新しい書き手の発掘に努め、他の同人誌との交流を深めるなど、様々な手立てを講じて、同人の指導・育成に尽力している。</p> <p>さらに、中部ペンクラブの理事として文学賞の運営委員、編集副委員長を務めており、本県を含めた中部圏の文学振興にも大きく寄与している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 音楽分野（合唱）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>じよせいがつしやう ルーチエ 女声合唱 Luce</p> <p>(団長：伊達 潮美)</p>	<p>四日市市</p>	<p>平成 20 年に合唱団設立以来、美しいハーモニーを求めて練習を重ねながら各種大会に挑戦し、質の高い豊かな音楽づくりをめざしてきた。</p> <p>平成 31 年 3 月には福島県で開催された「第 12 回声楽アンサンブルコンテスト全国大会」に出場するとともに、同年 8 月に中部支部大会を勝ち抜いて出場した「第 42 回全日本おかあさんコーラス全国大会」では、最優秀団体に贈られるグランプリを受賞した。</p> <p>また、各種大会だけでなく、地域のイベントや病院、施設でのボランティア活動にも積極的に参加し、歌声を広く届ける活動を通じて、地域おこしに貢献している。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 伝統芸能分野（能楽囃子）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>なばり のうがくはやし  名張こども能楽囃子  きょうしつじっこういんかい  教室実行委員会</p> <p>(代表：<small>おもと</small> 尾本 <small>よりひこ</small> 頼彦)</p>	<p>名張市</p>	<p>名張市は能楽への関心が高い地域であるが、能楽を担う人材が高齢化しており、次世代の育成が課題となっている。そうした中、当団体は平成19年に設立され、地域の子ども達に能楽の太鼓と笛の演奏技術を教え、能楽への関心や理解を深めてもらうとともに、様々な発表の機会を通じて、市民・県民の能楽への関心を高める役割を果たしてきた。</p> <p>13年間の活動の中で、10年以上続けてきた受講生をはじめ、継続者が非常に多いという、スタッフの指導力の高さと、その活動成果が全国ニュースで取り上げられたこともある。</p> <p>発表の機会も名張市内にとどまらず、「三重の能楽まつり」をはじめ、市外・県外へと拡大しており、観阿弥創座の地である名張市や三重県に係る広報に貢献している。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ひらが せつよ 平賀 節代  (72 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、平成2年に山口いさを主宰の「菜の花」に入会し、俳句を始めた。その後、活躍が評価され、「三重県俳句協会年間賞」、「東海地区現代俳句賞」、「中部日本俳句作家会賞」等を受賞するなど、全国レベルの作家として認められている。</p> <p>また、各種俳句大会に選者として携わり、佳作を抄出し、人材の発掘に努めている。</p> <p>さらに、子ども達に俳句の素晴らしさ・楽しさを伝えることが大切と考え、学校や図書館講座などに出向き、作句指導に力を入れるなど、後進の育成にも尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（小説・童話）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>むらやま まさこ 村山 昌子</p> <p>(64 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、昭和 61 年に「教育文芸みえ」に童話「二つのいちご」を発表した。その後、昭和 63 年からは、文芸同人誌「文宴」に同人として参加し、毎号短編小説を発表し続けている。その独特の文学世界は、他に例を見ない感性を秘めている。</p> <p>平成 13 年には「第 4 回鈴鹿市民大学文学賞」にて優秀賞を受賞するなど、数多くの功績を収めている。</p> <p>また、地域子ども達に俳句・短歌・作文の指導を行い、後進の育成に努めている。</p> <p>さらに、地域の「まちづくり協議会」の「幼少年・青少年育成部」や「鈴鹿市市民会議」に所属し、地域の幼児・青少年が地域でどのように健全に生きていくべきかを考えながら文章に表現するコンクールや公民館講座を主催するなど、文化を通じた地域おこしに貢献している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 美術分野（絵画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>いわな やすたけ 岩名 泰岳  (32 歳)</p>	<p>伊賀市</p>	<p>氏は、自身の育った伊賀市島ヶ原を題材として絵画制作を続け、その作品は美術関係者や愛好者から高く評価されている。令和元年10月には青森県立美術館での展覧会に招待されるなど、三重県在住の新進作家として活躍している。</p> <p>また、芸術大学や各地域において講演を行い、後進の育成にも努めている。</p> <p>さらに、島ヶ原に暮らす若者達の芸術集団「蜜の木」の中心的存在として、地域の歴史の掘り起こしや地域に伝わる記憶の継承に独自の手法で取り組み、美術の枠にとどまらないその活動は県内外から注目を集めている。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（散文）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おがわ 小川 はつこ  (65 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、平成 24 年から小説・エッセイ・児童文学の執筆に取り組み、県内外の文学賞等に応募・入選をしてきた。</p> <p>平成 27 年 6 月から「鈴鹿川柳会」の会員になり、川柳を創作、平成 28 年 9 月から文芸同人誌「P.」の同人となり、毎号小説・児童文学等を執筆、また、同年 12 月からは「四日市詩をよむ会」の会員になり、詩の発表も始めた。</p> <p>中でも、執筆する散文はユーモラスで軽快なタッチのものから、現代社会の抱える問題をテーマに据えたものまで幅広い。</p> <p>「鈴鹿市文芸賞」、「四日市市文芸賞」など受賞歴も多く、特に、平成 26 年から平成 30 年まで、「鈴鹿市文芸賞」において 5 年連続で最優秀賞を受賞し、当賞始まって以来の快挙として新聞にも取り上げられた。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 美術分野（竹製ランプの制作・演出）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かわぶち こうへい 川 澁 皓 平 カ ナ エ リ ア (雅号：canaarea)</p> <p>(35 歳)</p>	<p>伊賀市</p>	<p>氏は、平成 18 年に NGO ピースボートが主催する「地球一周の船旅第 54 回クルーズ」に乗船し、竹あかりと出会い、以後、竹あかりの制作・プロデュース・演出を業として今に至る。</p> <p>これまで、LGBT レインボーフェスタの演出や齋王まつりの舞台演出、日台芸術家交流におけるワークショップなど、県内外・海外の数多くのイベントにおいて竹あかりという文化を発信してきた。</p> <p>平成 29 年には三重県総合文化センターにて開催された「M 祭」において、子ども達を対象にワークショップを実施した。その他にも、大学生に竹切りから制作・デザイン・演出までの流れを指導し、彼らが地域のお祭りで竹あかりを発表するなど、地域おこしにも尽力している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（短歌）

名 前	住 所	受 賞 理 由
しみず 清水 ゆん	志摩市	<p>氏は、平成 26 年から独学で短歌を詠み始めた。平成 28 年に短歌結社「未来」、平成 29 年には三重県歌人協会に入会した。</p> <p>その後、「NHK 全国短歌大会」や「角川全国短歌大会」、「現代歌人協会全国短歌大会」などで数多くの賞を受賞している。</p> <p>また、自身が所属する三重県弁護士会にて開催されている女子会において短歌の選評を行うなど、人材の育成にも尽力している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 音楽分野（大正琴）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>はしもと れい 橋本 莉  (15 歳)</p>	<p>南伊勢町</p>	<p>氏は、祖母からの指導を受けて小学校 2 年生から大正琴を始め、小学校 3 年生からは大正琴体験グループ「度会キッズ」に入会し、大会に向けた本格的な練習を開始した。その後、毎年、「全国子供大正琴コンクール」にて受賞を重ね、平成 29 年には文部科学大臣賞を受賞した。その功績を称え、平成 30 年には南伊勢町町民表彰として、町民文化賞を受賞している。</p> <p>また、南伊勢町で開催されるイベントで演奏会を行うなど、大正琴の魅力を広めるとともに地域おこしにも貢献している。</p> <p>勉強と大正琴を両立して頑張ってきた氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

## 第19回 三重県文化賞の概況

### 1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

### 2 募集期間

令和元年7月26日から9月25日まで

### 3 受賞候補者の状況

文化大賞	4名	
文化功労賞	11名	
文化奨励賞	12名	
文化新人賞	11名	総数 38名

### 4 受賞者の状況

#### (1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野										計
	文学	美術	音楽	演劇・ 舞踊	写真	メディア 芸術	伝統 芸能	生活 文化	学術	その他	
文化大賞									1		1
文化功労賞	1		1					1			3
文化奨励賞	3		1				1				5
文化新人賞	2	2	1								5
計	6	2	3				1	1	1		14

#### (2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞				1							1
文化功労賞		1				2					3
文化奨励賞	1	1	1			1	1				5
文化新人賞			1			2	2				5
計	1	2	2	1		5	3				14

三重県文化賞歴代受賞者（第1回～第19回）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村 憲司（児童文学）	勝美 伊三次（日本舞踊） 保黒 時男（植物生態学調査）	あの津っ子の会（児童文学） 伊勢管弦楽団（交響楽） 伊藤 宏樹（吹奏楽） 落合 花子（詩歌） 川端 守（地域づくり活動）	新井 明子（演劇） 津手づくり絵本の会（児童文学） 坪井 智子（箏曲） 伴 剛一（作曲活動） 東川 和子（川柳） 平田 環（俳句）
第2回	平成14年度	（該当者なし）	亀山絵本と童話の会（児童文学） 坪島 土平（陶芸） 三重ヴォークスボーナ（合唱）	伊勢シンフォニックバンド（吹奏楽） 菅生 三千代（箏曲） 羽場 正一（演劇） 黛 元男（詩歌） 南川 憲生（彫刻）	池田 比早子（ひのきクラフト） 鎌田 美津子（写真） ゴルジ隊（演劇） 阪野 優（マンボ研究） 田中 豊（演劇） 中森 勉（写真） 平賀 節代（俳句） 森田 茂治（詩歌）
第3回	平成15年度	稲垣 克次（彫刻）	川北 佐平治（伝承芸能） 中村 武郎（ギター・マンドリン） 山口 勲（俳句）	金子 聡（環境科学研究） 北住 淳（ピアノ演奏） 近藤 英子（彫刻） 森 一蔵（萬古焼） 山内 玲子（箏曲）	石井 烈（俳句） 佐々木 経子（俳句） 東 勝美（児童文学） Building Bridges （文化資産等の保護） 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN（津軽三味線） 三浦 恭子（インド舞踊） 水野 昌光（地域の映画館を 活用した市街地活性化）
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》（合唱）	岡村 信也（吹奏楽） 土屋 喜八郎（能楽） 中林 長生（俳句）	笠井 幹夫（オペラ） 木岡 ふみ子（箏、三絃） 佐々木 宏子（ピアノ演奏） 清水 正明（郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介） 谷口 智行（俳句）	阪本 青悠（書） 高崎 一郎（詩） 中山 かほり（吹奏楽） 藤田 智子（箏、十七絃等） 松田 実靱（小説） 三重大学ダンス部（ダンスの創作）
第5回	平成17年度	野口 巳織子（日本画）	関宿町並み保存会 （関宿の町並み保存） 田村 美保子（大正琴） 間瀬 昇（評論、小説）	田村 公男（洋画） 東海 かおり（箏、三絃） 福山 良子（俳句） 松嶋 節（小説） 山村 楽女（日本舞踊）	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” （童話） 麻植 慶治（雅楽） 奥山 和子（俳句） 後藤 千佳子（筆名；伍東ちか） （現代詩） 津村 美香（フラワーデザイン） 人情集団An-Pon-Tan （バリアフリーミュージカル）
第6回	平成18年度	谷本 光生（伊賀焼）	岡森 章（伊賀焼） 森 浩一（能楽・狂言）	川島 雅樹 （声楽・オペラ・合唱） 水谷 幸勉（工芸美術） 宮村 典子（川柳） 村上 しいこ（童話） 三重オペラ協会（オペラ）	佐藤 千恵（俳句） みえ熊野学研究会 （地域資産研究）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田 正和（俳句）	越知 愛幸子（合唱） 中川 忠峰（根付） 吉居 清雄（堅塩作り）	中山 かほり（吹奏楽） 西田 誠（俳句） 秦 昌弘（郷土作家の研究） 服部 博之（和太鼓） 馬場 浩子（声楽）	アモーレかめやま（大正琴） 梅山 憲三（現代詩） 垣内 美穂（詩・児童文学） 桐生 智晃（吹奏楽） 葛原 郁子（短歌） 現代邦楽奏団グループ竹友（邦楽） 比留間 雅弥真天（邦楽）
第8回	平成20年度	小野 雅生（洋画）	稲垣 無得（書） 倉田 しげる（俳句）	伊藤 政美（俳句） 岩崎 孝子（洋画） 津田 親重（日本画） 野村 幸廣（ミュージカル） 山本 翠松（伝統漆工芸）	秋野 信子（詩・小説） 岡本 妙子（詩） 劇団員弁川（演劇） 福田 容子（俳句）
第9回	平成21年度	園田 幸男（吹奏楽）	赤井 重規（能楽） 原 直矢（彫刻） 鍋島 泰（方言の研究）	橋本 輝久（俳句） 三重県吹奏楽連盟（吹奏楽） 田中 厚好（彫刻） 青木 久佳（短歌） 岸 武男（演劇）	山口 道子（版画） 前田 照子（俳句） やまぎり 萌（現代詩） 林 英一（多文化共生の研究） 長岡 むつみ（リコーダー指導） 中川 左和子（短歌）
第10回	平成22年度	長島 幹生（写真）	相賀 泰（神楽） 衣斐 弘行（評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰） 川合 俊平（合唱）	小河 柳女（川柳） 津奈乃会（邦楽） 矢田 新男（写真） 矢吹 紫帆 （音楽による地域振興）	小早川 涼（小説） 佐藤 ゆかり（女性史の研究） 多気町劇団白つばき（演劇） 橋倉 久美子（川柳） 橋本 石火（俳句） 堀内 晶（地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ） 村田 三郎（地域文化の紹介と観光ボランティアガイド） 村山 砂由美（詩）
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 （声楽・合唱・オペラ）	田嶋 禮子（マリンバ） 玉置 千代（児童文学） 野嶋 峰男（木漆工芸）	伊藤 清和（美術の振興） 神田 ひろみ（俳句・評論） 清崎 博（安乗の人形芝居） 山崎 龍芳（伊賀焼） 四日市ジュニア・アンサンブル （合奏等）	越知 ひとみ（音楽の普及） 小津 由実（俳句） 斎宮アカデミー（歴史・文化） 清水 潮（萬古焼） 中西 紀和（陶芸）
第12回	平成24年度	橋本 三重子 （日本画、書道）	伊藤 政美（俳句） 角谷 英明（陶芸） 菅生 和光（吹奏楽、指揮者）	桐生 智晃（吹奏楽） 坂尾 富司（写真） 中村 かおる（箏曲） 西田 真也（陶芸） 三重県陶芸協会 （「焼きもの」の振興）	真山 隼人（浪曲） 志摩市俳句協会（俳句） 手塚 泰子（俳句） 西村 健二（郷土史研究） 堀川 孝子（詩） 村松 とし子（短歌）
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団（交響楽）	羽場 正一（演劇） 羽根 功二（合唱） 森 悦彦（作詞・作曲）	小川 匪石（書） 紀の川良子と市民劇団 （演劇を通じた地域振興） 阪本 青悠（書） 達知 和子（短歌） 比留間 雅弥真天（箏・三弦）	岩田 典子（俳句） 服部 真紀子（陶芸） 廣 めぐみ（声楽）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華（書）	谷本 景（伊賀焼） 森 正（陶芸） 脇谷 実千子（児童文学）	尾崎 亥之生（俳句） 武村 豊徳（陶芸） 伴野 節子（箏・三絃） 吉川 光和 （競技かるたの読み手） 吉崎 柳歩（川柳）	伊藤 圭佑（津軽三味線） つげ みさお（児童文学） 西田 昂平（声楽） 和太鼓 凜（和太鼓）
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月（陶芸）	加藤 純一（詩吟） 福田 勝（能楽） 松山 好成（組紐）	印藤 幸恵（陶芸） 坂口 緑志（俳句） 田邊 三郎（写真） 中井 智弥（箏曲） 安田 隆亮（絵画）	牛場 寿子（写真） 大形 弥生（木工） 駒田 早代（津軽三味線） 野瀬 みつ子（写真） 平野 透（俳句）
第16回	平成28年度	錦 かよ子（作曲）	石井 いさお（俳句） 矢田 新男（写真）	梅山 憲三（現代詩） 岡本 千尋（俳句） 加藤 秀樹（陶芸） 憲旺会（尺八） 伴 剛一（作曲）	伊藤 潤一（書） 前田 祐英（木工） 森川 眞理子（パステル画） 森下 充子（俳句） 横田 千明（彫刻）
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」（合唱）	井上 博暁（俳句） 菊川 淑子（能） 桐生 智晃（吹奏楽）	牛場 和美（写真） 紺谷 猛（小説） 近藤 たみ（陶人形） 藤原 伸久（小説） 森 玲子（箏曲）	赤野 四羽（俳句） 岡島 千秋（俳句） 久保 恵子（詩・児童文学） 小林 美咲（声楽） 白木 千華（陶芸）
第18回	平成30年度	林 克次（陶芸）	多門 志風（水墨画） 恒岡 光興（伊賀焼） 西川 里寿（日本舞踊）	現代邦楽奏団「新しいぶき」 （邦楽） 谷本 雅一（石彫刻） 辻井 甫山（尺八） 戸田 真樹（文芸評論） 西尾 敬一（俳句）	岩田 優里愛（ヴァイオリン） 高藤 典子（詩・短歌・俳句） 竹内 洋司（尺八） 藤田 哲也（日本画） 森本 昭子（俳句）
第19回	令和元年度	大川 吉崇（郷土文化）	荒木 友梅（書道） 河俣 和子（合唱） 橋本 輝久（俳句）	遠藤 昭己（小説・詩） 女声合唱 Luce（合唱） 名張こども能楽囃子教室実行委員会 （能楽囃子） 平賀 節代（俳句） 村山 昌子（小説・童話）	岩名 泰岳（絵画） 小川 はつこ（散文） 川渕 皓平 （竹製ランプの制作・演出） 清水 ゆん（短歌） 橋本 莉（大正琴）